

新型コロナウイルスの感染が世界中に拡散するに伴って、生活様式に変化が生まれた。週に4日以上通っていたスポーツクラブが閉鎖され、運動不足に陥った。同時に3密そのもののサウナも閉鎖され、自宅での入浴習慣のない私にとって極めて影響が甚大で、入浴をどうするかが問題となった。いつも会っていた仲間達とのやりとりもなくなり、1月にススキノの割烹でご馳走になったSさんと食事に行くことを約束していたのだが、5月末に脳梗塞で急逝されてしまった。スポーツク

み切った。毎月あるいは隔月で開催されていた全国規模の会議もWEB開催となり、それに機能を発揮して、新型コロナウイルス騒動が終息した後での会議のあり方に一石を投じることになるだろう。学会や定期的会議も実際に出向くことがなくなり、飛行機に搭乗する回数が激減した。2時間の会議に出席する目的で上京する場合、往復3時間の飛行時間に3時間の移動時間を加え、会議時間の3倍もの時間が費やされ、時間、費用のロスがいかに大きいものであるかあらためて考えさせられた。

《新型コロナウイルス》時代を生きる

情報広報部 橋本 洋一

学生時代から40年間通い続けているお好み焼きのお店Aと、他の店ではなかなか食べることができない大間

のマグロをはじめとした絶品の刺身、そして中華料理の和洋折衷ならぬ和折衷のお店Yに行く習慣は、時間を早い時間にスライドすることで、ほとんど変わっていない。相対的にお客の数が少ないこともあって3密の状況にないのが営業が持続できている理由なのだろう。

ラブが再開されてはじめてその事実を知らされた。新型コロナウイルスの感染の有無は明確ではないが、Sさんは糖尿病性腎症による慢性腎臓病で週に3回透析を受けられ、舌がんの治療も同時に行っており、複数のリスクファクターの持ち主であった。50年あまりの短い人生に頭を垂れて弔う以外に術はなかった。神戸で開催された2月のある研究会を最後に、開催が予定されていた学会が次から次へと中止になり、大阪で11月に開催予定の学会も新年度を迎える前に、はやばやと中止に踏

運動不足を解消するために、タクシーを安易に利用することを慎み、15年も愛用しているウォーキングシューズをはいて、時間が許す限り、歩くことにした。30分歩くと、0・

5kgの減量になり、札幌駅スポーツジム間や円山公園近郊を歩くことが定着した。今まで気にもとめなかった風景に魅せられ、生きているんだという気持ちを実感する。35年前に購入した円山のマンションをめざして、アメリカ領事館の裏手を通って、南大通に向かう。よくこのマンションに遊びに来る道医の職員力を借りて、ゴミ屋敷と化したわがマンションが再生された。10年ほど前に洋式の佇まいに改築した時に新しく設置したエアコンのリモコンと10年ぶりに再会した。人間が人間らしく生きる基盤はやはり住まいであって、その住まいの快適な環境が蝕まれている状況から脱却できたのも、新型コロナウイルスから自分自身を守るために行ったウォーキングや環境の整備のお陰ともいえないのではない。環境整備の成果はダンボール箱5個と、ワインの空ボトル20本あまりに集約された。

新型コロナウイルスとの長期戦に備えて、毎日の湯船浴と質の高い睡眠を取ることが重要である。『ペスト菌は決して死ぬことも、消滅することもない』と70年以上も前にカミュが指摘しているが、新型コロナウイルスにも同じことが言える。我々人類は、『ペスト』の教訓どおり客観的な事実把握とその記録に努め、横行するデマや差別と真摯に戦うことが求められている。同じ地球という天体に生きる仲間として、かけがえのない私達の子孫のために。